

# 別 添 資 料

・ 設計打合せ・記録簿 .....	2
(第1111条第1,2項関係)	
・ 設計報告書要領 .....	5
(第1211条(1)関係)	
・ 設計概要書 .....	7
(第1211条(1)関係)	
・ 設計図面の作成要領(標準) .....	11
(第1211条(3)関係)	
・ 数量計算要領(標準) .....	14
(第1211条(4)関係)	
・ 技術者等の経験年数等について(参考) .....	35
(第1107条(3)、第1108条(2)関係)	
・ 下水道設計有資格者一覧表と法的根拠(参考) ..	36
(第1107条(3)、第1108条(2)関係)	
・ 港湾及び港湾海岸に係る技術者資格表 .....	39
(第1107条(3)、第1108条(2)、	
測量第9条(3)、地質調査第108条(3)関係)	

. 身分証明書交付願及び身分証明書様式（参考） .. 40

（第1116条（4）、測量第17条（4）、

調査第116条（4）関係）

## ・設計打合せ・記録簿（標準）

第 回					追 番		頁		
発注者 印	監督員	係 長	課 長		受注者 印	担 当 者		管 理 者 技 術 者	照 査 者 技 術 者
部 課 名					受注者				
件 名						整理番号			
出 席 者	発注者側					日 時	年 月 日 ( )		
						場 所			
	受注者側					打 合 せ 式 打 方	会 議 ・ 電 話		

## ・設計報告書要領

### 1 . 設計報告書

- 1 ) 設計報告書の製本は別図を標準とし表紙には設計業務等の標題を金文字で印刷するものとする。
- 2 ) 設計計算書、数量計算書、図面等は必要に応じて箱詰め（別様）とし、前項同様に金文字にて印刷するものとする。
- 3 ) 設計報告書の大きさは A - 4 版を標準とする。
- 4 ) 図面袋又は箱の表面には、図面の内容を次の様式により記入又は添付する。

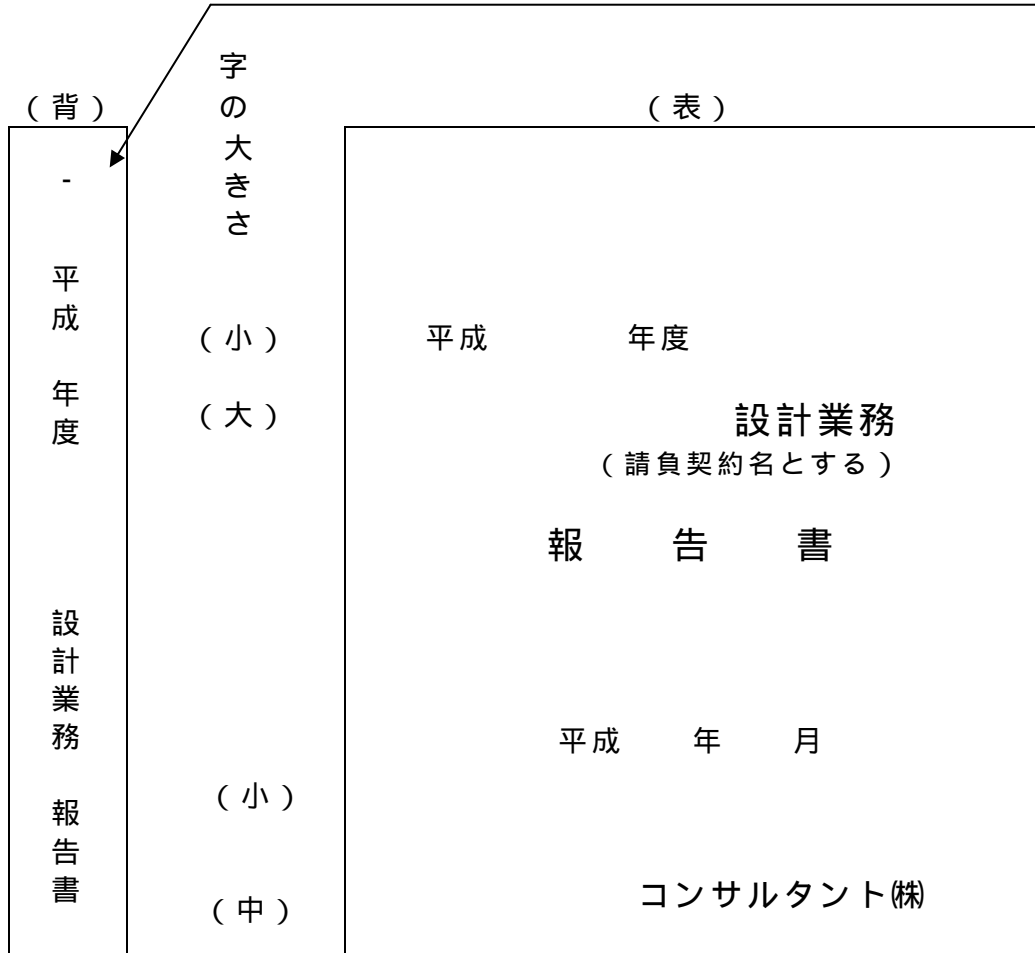
工 事 名		
図 面 名	図 面 番 号	葉 数
位 置 図	1	1
平 面 図	2	1
図	3 ~ 5	3
図	6 ~ 8	3
図	9	1
図	1 0	1
図	1 1	1
図	1 2	1
図		

### 2 . 注意事項

- ( 1 ) 設計に用いる記号は道路橋示方書にもとづくものとする。
- ( 2 ) 設計条件は応力計算の前に整理し明記しなければならない。
- ( 3 ) 計算に用いる公式、図表などは、その出典を加えるものとする。
- ( 4 ) 曲げモーメント図、せん断力図、たわみ図は原則として添付すること。
- ( 5 ) 設計断面と作用荷重、許容応力度、実応力度の対照一覧表を作成すること。
- ( 6 ) 電子計算機を利用した場合、設計条件（フローチャート）を示し、入力条件、出力データを見易く明記すること、また、出力データを他の計算に用いる場合はその数値の出典を明示すること。

# 設 計 報 告 書 ( 標 準 )

地質調査の場合のみ、土質調査番号を明記する。(注)



(注): 監督員から土質調査番号を指示された場合に明記する。

## 3 . 原 図

原図の紙質はリコピー用紙又はトレーシングペーパーを用いるものとする。

## 4 . 受注者の業務担当者の明記

設計報告書表紙の次ページに管理技術者他業務担当者の一覧表を記載するものとする。

## 設計概要書

1. 設計概要書は、監督員と協議のうえ作成するものとする。道路設計の場合の設計概要書の様式例を参考として下記に掲載する。

### (例) 設計概要書

都道府県名				箇所名 (工区名)									
路線名				計画延長		m		工種		計画工期		H. ~ H.	
事業費		全体 C = 百万円		内改良		内橋梁		内舗装		(内用地費)			
路線全延長				計画区間の 起終点									
路線の 整備状 況	区分	実延長 (km)	改良率 (5.5m以上)		舗装率(高級)		整備率		計画交通量配分図				
			延長	率(%)	延長	率(%)	延長	率(%)					
	市全体												
	路線 区間												
新規計画の理由													
関連事業等													
現況・計画		現況						計画					
延長		m						m					
内トンネル		箇所						箇所					
内橋梁		橋						橋					
構造規格		種級						種級					
幅員構成													
設計速度		km/h						km/h					
交通量		交通量 T = 台/日 (大型車 台/日) 交通容量 台/日 混雑度 (年) 自転車数 (年) 歩行者数 (年) 区間事故率 (年) 信号機数						交通量 T = 台/日 (大型車 台/日) (要因・伸び率等) バイパス計画の場合の 現道交通量 T = 台/日					
建築限界		m ( )						4.5 m + m					
曲線半径		最小 15m以下		箇所 50~100m		箇所		基準(最小)		m (特例)		m	
		15~30m		箇所				設計(最小)		m		箇所	
		30~50m		箇所									
縦断勾配		最急勾配 %		m		8%以上		m		基準(最急)		% (特例) %	
		5%以上		m		9%以上		m		設計(最急)		% m	
		6%以上		m		10%以上		m					
		7%以上		m									
登坂車線													
舗装													
鉄道交差													
退避所													
都市計画決定状況		有・無		決定年月日				構造形式				幅員	

(例)

設 計 の 概 要						
調査区間及び路線の性格						
調査経緯						
ルート選定の条件						
計画区間の事故発生状況						
計画区間の災害発生状況						
期待される整備効果						
有料道路事業としての可能性						
土地利用と整合性及び環境への対応						
道路規格の決定理由	(第 種 級)					
設計速度の決定理由	km / h					
バイパス部の旧道処理方針						
関係市区町村の概要	現況	人口 世帯数 面積 人口密度 協力体制	人 世帯 km <sup>2</sup> 人 / km <sup>2</sup>	計画	人口 世帯数 面積 人口密度 協力体制	人 世帯 km <sup>2</sup> 人 / km <sup>2</sup>
地元の動向						
その他						



(例)

(協議終了後、本命ルートのみ作成)

設 計 の 概 要									
<p>(平面概要)</p> <p style="text-align: center;">箇所数のポンチ絵程度</p>									
<p>(縦断図)</p>									
<p>(事業計画)</p> <p>区間別の 年次計画 年度別 投資計画</p>									
	年 度	H .							合 計
	事業費								
<p>(標準横断図)</p>					<p>道路幅員の 選定理由 ( ) m</p>				

(例)

ル ー ト 比 較 表 ( ) 北九州市

計画区間と 路線の性格					
比較ルート		Aルート	Bルート	Cルート	
ルートの 選定条件					
ルートの 概要	起 点				
	終 点				
	通 過 点				
延 内 内	長 トンネル 橋	km 箇所 橋	m m	km 箇所 橋	m m
構造規格		種 級	種 級	種 級	
幅員構成		m ( m )	m ( m )	m ( m )	
設計速度		km / h	km / h	km / h	
線形 の 概要	平 面	最小半径 R = m	最小半径 R = m	最小半径 R = m	
	縦 断	最急勾配 I = %	最急勾配 I = %	最急勾配 I = %	
事 業 費	全 体	百万円	百万円	百万円	
	内改良	百万円	百万円	百万円	
	内橋梁	百万円	百万円	百万円	
	内舗装	百万円	百万円	百万円	
主な構造物					
土工規模と 地質の状況		最大切土高 = m 最大盛土高 = m	最大切土高 = m 最大盛土高 = m	最大切土高 = m 最大盛土高 = m	
土地利用との 整合性及び 環境への対応					
他事業関連					
施工性及び 暫定施工の 考え方					
総合評価					
結 論					

## ・設計図面の作成要領（標準）

### ・一般土木の場合（下水道管渠を除く）

1．設計図の作成、取扱いについては本要領によるほか、J I S A 0 1 0 1「土木製図通則」、土木学会制定「土木製図基準」によるものとする。

2．設計図面はトレシングペーパーを使用する。

#### 3．図面の種類

図面の種類は次の通りとする。

- 1) 位置図
- 2) 平面図
- 3) 一般図
- 4) 横断面図
- 5) 縦断面図
- 6) 標準横断面図
- 7) 構造図（詳細図を含む）
- 8) その他

#### 4．図面の大きさ

図面の大きさの標準は下表に示すのを原則とする。

番 号	寸 法 mm	番 号	寸 法 mm
A - 0	841 × 1,189	A - 3	297 × 420
A - 1	594 × 841	A - 4	210 × 297
A - 2	420 × 594		

1) 設計図面の部数が著しく多くなる場合は、マイクロ写真及び写真によるタイプ、オフセット（PTO）印刷により図面をA - 3版程度に縮小することができる。

2) 必要に応じ長手方向に延長することができる。

#### 5．図面の正位

図面の正位は、その長手方向においた位置を正位とする。

#### 6．輪郭と余白

図面には輪郭を付け、輪郭外の余白はA - 0、A - 1では15mm、A - 2、A - 4では10mmとする。

輪郭は一本の太い実線とし、線の太さは1.0mmを標準とする。

#### 7．原図の大きさ、紙質

1) 原図には、青写真切取線（図面仕上寸法）のほかに適当な間隔を取り、原図の破損を防護する。

2) トレース原図の紙質は下記の通りで、トレシングペーパーにおいては縁を保護する。

平面図            ポリエステルシート    300#程度  
 その他の図面    ポリエステルシート    300#程度  
 又は、艶消中厚トレシングペーパー

8. 図面の折りたたみ

図面の折りたたみの大きさは横 148 mm、縦 210 mmを原則とするが、監督員の指示に従うものとする。

9. 縮尺

縮尺は設計図書の成果品一覧に示す縮尺を原則とする。

なお、特別な場合は、監督員の指示に従うものとする。

10. 図面の標題

1) 標題の寸法及び様式は下記を標準とし、図面の左上隅を原則とするが、監督員の指示に従うものとする。

2) 縮尺が図面内に種々ある場合は、それぞれの図ごとに縮尺を記入する。

縦 75 mm程度  
 横 100 mm程度

<b>北 九 州 市</b>			
工事名称	平成            年度		
	工事		
工事箇所	区            地内		
図面名称		縮 尺	
図面番号	全	葉中	号
設計担当課	局            部            課		

3) 図面名で横断面図等の場合はNo. を記入する。

(例) 横断面図 No. 5 ~ No. 12

11. 設計図面作図要領

設計図面記載については、次の事項に注意して係るものとする。

1) 平面図

イ. 測点の配列方向は、図面の左端を起点とし、右方に配列する。

ロ. 河川の堤防、護岸等は下流を起点として上流に向かって追番号とする。

ハ. 道路は起点から終点に向かって追番号とする。

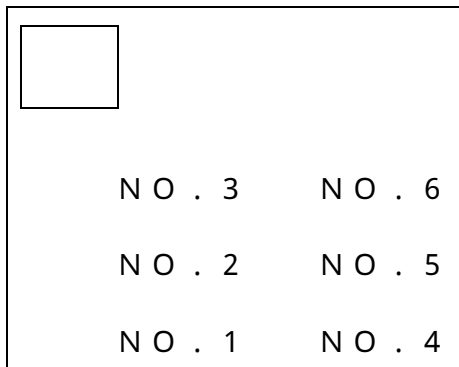
ニ. 海岸は、海岸名ごとの起点から終点に向かって追番号とする。

ホ. 明示の幅は、工事施工に必要な幅に余裕をもつ幅とする。

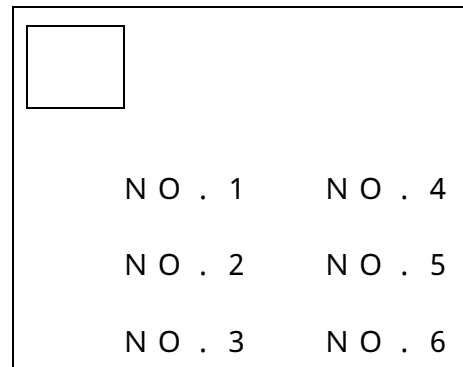
2) 横断面図

- イ．河川、ダム、堤防、護岸等  
上流から下流方向を見ること、水制及び取付道路は起点から終点を見ること。
- ロ．海岸  
起点から終点方向を見ること。
- ハ．道路  
起点から終点方向を見ること。
- ニ．砂防  
下流から上流の方向を見ること
- ホ．横断面の配置は次図のとおりとする。

道路及び砂防



河川及び海岸関係



### 3) 縦断面図

- イ．図面上の測定配列方向は、平面図の配列方向に合致させるものとし、かつ施工区間の前後の関係を知らることのできる若干区間を記入するものとする。
- ロ．道路の路線図面は平面図と縦断面を一枚の図面に併記することができる。この場合、平面図は上段、縦断面は下段とする。

### 4) 構造詳細図

- イ．構造図は左上に側面、左下に平面、右上に断面図をかくのを標準とする。
- ロ．橋梁の側面図は道路の起点側を左方として画くのを標準とする。
- ハ．基礎の地質柱状図等の調査成果を記入するものとする。

### 5) 図面整理

図面は次の順序で追番号をつけて整理する。

- イ．位置図
- ロ．平面図
- ハ．一般図
- ニ．標準横断面図
- ホ．縦断面図
- ヘ．横断面図
- ト．構造図（詳細図を含む）
- チ．その他

## ．数量計算要領（標準）

### 1．数量計算方法

- 1) 数量の単位については、すべて「計量法」によるものとする。
- 2) 長さの計算については、数学公式によるほか、スケールアップによることができる。ただし、スケールアップによるときは、2回以上の実測値の平均値をとるものとする。
- 3) 面積の計算については、数学公式によるほか、3斜誘致法、またはプランニメーターによって算出するものとする。ただし、プランニメーター等を使用する場合は、3回以上測定したもののうち、正確と思われるものの3回の平均値とする。  
また、各法長が一定でない面積を計算する場合は、両辺長を平均したものに、その断面間の距離を乗ずる平均法により算出するものとする。
- 4) 体積の計算については、数学公式によるほか、両断面面積の平均数量に距離を乗じる平均断面法により算出するものとする。
- 5) 構造物の計算に使用する角度については、「分単位」までとし、円周率、法長、乗率、三角関数および弧度は四捨五入して少数第3位までとする。
- 6) 算式計算の乗除については、記載の順序によって行い、分数は約分せず、分子分母にその値を求めた後に除算を行うものとし、四捨五入により位止めするものとする。

### 2．構造物の数量から控除しないもの

以下に掲げる種類の容積または面積は、原則として構造物の数量から控除しないものとする。

- 1) コンクリート中の鉄筋・鋼矢板・土留材等
- 2) コンクリート中の基礎杭頭
- 3) コンクリート中の支承座面の箱抜
- 4) 床版コンクリート中の主桁上フランジ
- 5) 鋼材中のボルト孔および隅欠き
- 6) コンクリート構造物の面取りおよび水切り
- 7) コンクリート構造物の伸縮継目の間隔および止水板
- 8) コンクリート構造物内の内径30cm以下の管類、水抜孔等
- 9) 基礎材中の径30cm以下の杭および胴木
- 10) 法沿い肩排水工、地下排水工等の容積およびこれに類似のもの
- 11) コンクリート構造物中のモルタル注入孔および埋込金具等の容積
- 12) 舗装工、床版工中の1箇所1.0m<sup>2</sup>未満の建造物
- 13) 盛土中で現地盤線以上の断面面積が1.0m<sup>2</sup>未満の建造物
- 14) ガードレール、ガードパイプ等防護柵の支柱の箱抜き
- 15) その他、面積または体積が前項に示す値以下で、全体数量に及ぼす影響

が僅少なものを

ただし、現場打杭および杭頭部の結合方式がA方法の場合のフォーミングコンクリートについては、控除するものとする。

16) 上記1～15に準ずるものと判断されるもの

### 3. 構造物の数量に加算しないもの

施工時に数量を算出する必要がある場合、以下に掲げる内容については構造物の数量に加算しないものとする。

- 1) 品質・形状等が不相当と発注者が認め、解体・除去を命じた構造物
- 2) 型枠の余裕面積
- 3) コンクリート、鉄筋等の材料の損失量
- 4) 鉄筋の組立・据付に使用したタイクリップ等
- 5) 仮締切、支保、足場工等における仮設基礎コンクリート等
- 6) 上記1～5に準ずるものと判断されるもの

### 4. 数量計算の単位および数値

数量計算に用いる単位および数値は、次表 - 1～3によるものとする。

なお、表中の数値以下の数量については、有効数値1位（有効数値2位を四捨五入）を用いるものとし、また、表にないものについては、表 - 1に準じて考えるものとする。

表 1 数量計算の単位および数値一覧表

計 算 書 名	種 別	単 位	数 位	摘 要
土 工 量	距 離	m	小数位以下 1 位止	2 位を四捨五入
	幅 ・ 高  さ	m	" 1 "	2 "
	断 面 積	m <sup>2</sup>	" 1 "	2 "
	平 均 断 面 積	m <sup>2</sup>	" 2 "	3 "
	土 量 ( 体 積 )	m <sup>3</sup>	" 1 "	2 "
法 面 積	距 離	m	小数位以下 1 位止	2 位を四捨五入
	法 長	m	" 1 "	2 "
	平 均 法 長	m	" 2 "	3 "
コ ン ク リ ー ト ブ ロ ッ ク ・ 石 積 ( 張 ) 面 積	距 離	m	小数位以下 1 位止	2 位を四捨五入
	法 長	m	" 1 "	2 "
	平 均 法 長	m	" 2 "	3 "
コ ン ク リ ー ト ・ ア ス フ ァ ル ト 体 積	幅 ・ 高  さ	m	小数位以下 2 位止	3 位を四捨五入
	長  さ	m	" 2 "	3 "
	体 積	m <sup>3</sup>	" 1 "	2 "
型 枠 面 積	幅 ・ 高  さ	m	小数位以下 2 位止	3 位を四捨五入
	長  さ	m	" 2 "	3 "
	面 積	m <sup>2</sup>	" 1 "	2 "
鉄 筋 質 量	径 ( ) 単 位 質 量	mm kg / m	整数 小数位以下 3 位 ・ 有効数字 3 桁	1 本 当 り 質 量 は 小 数 位 以 下 2 位 止 で 3 位 を 四 捨 五 入 1 位 を 四 捨 五 入
	質 量	kg	整数位止	
足 場 ・ 支 保	幅 ・ 高  さ	m	小数位以下 1 位止	2 位を四捨五入
	距 離	m	" 1 "	2 "
	面 積 体 積	掛 m <sup>2</sup> 空 m <sup>3</sup>	整数位止 "	1 " 1 "
粗 朶 沈 床 等 面 積	幅 ・ 長  さ	m m <sup>2</sup>	小数位以下 1 位止 " 1 "	2 位を四捨五入 2 "
舗 装 面 積	幅	m	小数位以下 2 位止	3 位を四捨五入
	距 離	m	" 1 "	2 "
	面 積	m <sup>2</sup>	" 1 "	2 "
区 画 線	長 延	m	小数位以下 2 位止	3 位を四捨五入
	さ 長	m	" 1 "	2 "
鋼 材 質 量	幅 ・ 高  さ	m	小数位以下 3 位止	4 位を四捨五入
	長  さ	m	" 3 "	4 " ( 鉄 筋 は cm 止 め )
	質 量	kg	整数位止	1 位を四捨五入
ボ ル ト 質 量	単 位 質 量	g / 本	整数位止	1 位を四捨五入
	本 質 量	kg	整数 整数位止	1 位を四捨五入
塗 装 面 積	幅 ・ 高  さ	m	小数位以下 3 位止	4 位を四捨五入
	長  さ	m	" 3 "	4 "
	面 積	m <sup>2</sup>	" 1 "	2 "



表 - 2 鋼板の質量

計 算 順 序	計 算 方 法	結 果 の け た 数
基本質量 kg/mm/m <sup>2</sup>	7.85 ( 厚さ / mm、 面積 / m <sup>2</sup> の質量 )	
単位質量 kg / m <sup>2</sup>	基本質量 ( kg / mm / m <sup>2</sup> ) × 板の厚さ ( mm )	有効数字 4 けたの数値に丸める。
面 積 m <sup>2</sup>	幅 ( m ) × 長さ ( m )	有効数字 4 けたの数値に丸める。
1 枚の質量 kg	単位質量 ( kg ) × 面積 ( m <sup>2</sup> )	有効数字 3 けたの数値に丸める。 ただし、100 ~ 999kg は小数第 1 位 に、1,000kg を越えるものは kg の 整数値に丸める。

表 - 3 平鋼の質量

計 算 順 序	計 算 方 法	結 果 の け た 数
基本質量 kg/cm <sup>2</sup> / m	0.785 ( 断面積 1 cm <sup>2</sup> 、 長さ 1 mの質量 )	
単位質量 kg/m	基本質量 ( kg/cm <sup>2</sup> / m ) × 断面積	有効数字 3 けたの数値に丸める。
断面積 cm <sup>2</sup>	幅 ( mm ) × 厚さ ( mm ) × 1 / 100	有効数字 4 けたの数値に丸める。
1 枚の質量 kg	単位質量 ( kg/m ) × 長さ ( m )	有効数字 3 けたの数値に丸める。 ただし、100 ~ 999kg は小数第 1 位 に、1,000kg を越えるものは kg の 整数値に丸める。

## 5 . 設計表示単位

- 1 ) 設計表示単位は、原則として次に示す表に定める単位により算出するものとする。
- 2 ) 設計数量が設計表示単位に満たない場合、および工事規模・工事内容等により設計表示単位が不相当と判断される場合は ( 小規模工事等 ) 有効数位第 1 位の数量を設計表示単位とする。
- 3 ) 次に示した表以外の項目については、工事規模・工事内容等を勘案して設計表示単位を適正に定めるものとする。
- 4 ) 設計表示単位への数字の丸め方法は、原則として設計表示単位に切り捨てして求めるものとする。

- 5) 設計表示単位の適用は各細別毎を原則とし、工種・種別は、1式計上を原則とする。
- 6) 契約数量は設計表示単位を原則とする。ただし、工事目的物以外で指定仮設等の数量明示が必要な種目以外は、1式計上する。
- 7) 設計表示単位に満たない設計変更は、原則として契約変更の対象としないものとする。

設計表示単位

工種	種別	細別	単位	数値	備考
土工	掘削工	掘削(土砂)	m <sup>3</sup>	1	注1
土工		掘削(岩)	m <sup>3</sup>	1	注1
土工	盛土工(路体・路床)		m <sup>3</sup>	1	注1
土工		盛土(流用、発生、採取、購入)	m <sup>3</sup>	1	注1
土工		路体(流用、発生、採取、購入)	m <sup>3</sup>	1	注1
土工		路床(流用、発生、採取、購入)	m <sup>3</sup>	1	注1
土工	法面整形工	法面整形(切土、盛土部)	m <sup>2</sup>	1	注2
土工	盛土補強工	安定シート・ネット	m <sup>2</sup>	1	
土工	残土処理工	残土処理	m <sup>3</sup>	1	注1
土工	作業土工	床掘り(土砂)	m <sup>3</sup>	1	注1
土工		床掘り(岩)	m <sup>3</sup>	1	注1
土工		埋戻し	m <sup>3</sup>	1	注1
土工	堤防天端工	天端敷砂利	m <sup>2</sup>	10	
共通的工種	矢板工	鋼矢板	枚	1	
共通的工種		可とう鋼矢板	枚	1	
共通的工種		軽量鋼矢板	枚	1	
共通的工種		広幅鋼矢板	枚	1	
共通的工種		コンクリート矢板	枚	1	
共通的工種		タイロッド	組	1	
共通的工種		腹起し	t	0.1	
共通的工種		控え版	m	1	
共通的工種		中詰砂	m <sup>3</sup>	10	ただし 100m <sup>3</sup> 未滿は 1m <sup>3</sup>
共通的工種	法枠工	法枠(現場打、プレキャスト、吹付)	m <sup>2</sup>	1	
共通的工種	吹付工	吹付(珪砂、コンクリート)	m <sup>2</sup>	1	
共通的工種	法面施肥工	法面施肥	m <sup>2</sup>	1	
共通的工種	植生工	種子散布	m <sup>2</sup>	1	注2
共通的工種		芝(各種)	m <sup>2</sup>	1	注2
共通的工種		客土吹付	m <sup>2</sup>	1	注2
共通的工種		植生基材吹付	m <sup>2</sup>	1	注2
共通的工種		植生マット	m <sup>2</sup>	1	注2
共通的工種		植生シート	m <sup>2</sup>	1	注2
共通的工種		植生筋	m <sup>2</sup>	1	注2
共通的工種		植生穴	m <sup>2</sup>	1	注2
共通的工種	かご工	じゃかご・ふとんかご・かご枠	m	1	
共通的工種		かごマット	m <sup>2</sup>	1	
共通的工種	井桁ブロック工	井桁ブロック	m <sup>2</sup>	1	
共通的工種		井桁ブロック基礎コンクリート	m	1	
共通的工種	補強土壁工	補強土壁基礎	m	1	
共通的工種		補強土壁	m <sup>2</sup>	1	
共通的工種		シオキスタイル補強土壁	m <sup>2</sup>	1	
共通的工種	軽量盛土工	軽量盛土	m <sup>3</sup>	1	
共通的工種		コンクリート床版	m <sup>2</sup>	1	
共通的工種		基礎コンクリート	m	1	
共通的工種		壁体	m <sup>2</sup>	1	
共通的工種		裏込碎石	m <sup>3</sup>	1	
共通的工種	吸出し防止工	吸出し防止材	m <sup>2</sup>	10	ただし 100 m <sup>2</sup> 未滿は 1 m <sup>2</sup>
共通的工種	泥水処理工	泥水処理	m <sup>3</sup>	10	
基礎工	既製杭工	既製コンクリート杭	本	1	ただし 1 本当 りは 1m
基礎工		鋼管杭	本	1	ただし 1 本当 りは 0.5m
基礎工		H鋼杭	本	1	ただし 1 本当 りは 0.5m

工種	種別	細別	単位	数値	備考
基礎工		掘削土処理	m <sup>3</sup>	10	
基礎工	場所打杭工	場所打杭	本	1	ただし1本当りは0.1m
基礎工		掘削土処理	m <sup>3</sup>	10	
基礎工	合成杭工	合成杭	本	1	ただし1本当りは0.1m
基礎工		掘削土処理	m <sup>3</sup>	10	
基礎工	オープン・ニューマチックケーソン基礎工	ニューマチックケーソン設備	式	1	
基礎工		刃口金物据付	基	1	
基礎工		掘削沈下	m <sup>3</sup>	10	
基礎工		沈下促進	t	0.1	
基礎工		底版コンクリート	m <sup>3</sup>	1	
基礎工		中埋コンクリート	m <sup>3</sup>	1	
基礎工		フローパイル調整	基	1	
基礎工		中詰充填	m <sup>3</sup>	100	ただし1000m <sup>3</sup> 未満は10m <sup>3</sup>
基礎工		砂セントル	m <sup>3</sup>	10	ただし100m <sup>3</sup> 未満は1m <sup>3</sup>
基礎工		天端コンクリート用型枠・支保	m <sup>2</sup>	10	
基礎工		止水壁取壊し	m <sup>3</sup>	1	
基礎工	深礎工・シャフト工	巻立コンクリート	m <sup>2</sup>	1	
基礎工		掘削土留	m	0.1	
基礎工		グラウト注入	m <sup>3</sup>	1	
基礎工	鋼管井筒基礎工	鋼管矢板	本	1	
基礎工		井筒内掘削	m <sup>3</sup>	10	
基礎工		継手処理	本	1	
基礎工		鋼管内掘削	m <sup>3</sup>	10	
基礎工		中詰コンクリート	m <sup>3</sup>	1	
基礎工		敷砂	m <sup>3</sup>	10	ただし100m <sup>3</sup> 未満は1m <sup>3</sup>
基礎工		底版コンクリート	m <sup>3</sup>	1	
基礎工		杭切断	本	1	
基礎工		鋼管矢板支保	t	0.1	
基礎工		間詰コンクリート	m <sup>3</sup>	1	
基礎工		間詰コンクリート撤去	m <sup>3</sup>	1	
基礎工		頂版接合	t	0.1	
石・ブロック積(張)	石・ブロック積(張)工	石積(張)・コンクリートブロック基礎	m	1	
石・ブロック積(張)		各種石・ブロック積(張)	m <sup>2</sup>	1	
石・ブロック積(張)		ブロック植栽	本	1	
石・ブロック積(張)		天端コンクリート	m <sup>3</sup>	1	
石・ブロック積(張)		小口止コンクリート	m <sup>3</sup>	1	
舗装工	舗装準備工	不陸整正	m <sup>2</sup>	10	ただし1000m <sup>2</sup> 未満は1m <sup>2</sup>
舗装工		調整コンクリート	m <sup>2</sup>	10	"
舗装工	橋面防水工	橋面防水	m <sup>2</sup>	10	"
舗装工	舗装工	下層路盤	m <sup>2</sup>	10	"
舗装工		上層路盤	m <sup>2</sup>	10	"
舗装工		路盤	m <sup>2</sup>	10	"
舗装工		フィルター層	m <sup>2</sup>	10	"
舗装工		基層	m <sup>2</sup>	10	"
舗装工		中間層	m <sup>2</sup>	10	"
舗装工		表層	m <sup>2</sup>	10	"
舗装工		セメントミルク浸透	m <sup>2</sup>	10	"

工種	種別	細別	単位	数値	備考
舗装工		アスファルト中間層	m <sup>2</sup>	10	ただし 1000 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>
舗装工		コンクリート舗装	m <sup>2</sup>	10	"
舗装工		転圧コンクリート舗装	m <sup>2</sup>	10	"
舗装工		縦目地	m	1	
舗装工		横目地	m	1	
舗装工		薄層カラー舗装	m <sup>2</sup>	10	ただし 1000 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>
舗装工		ブロック舗装	m <sup>2</sup>	10	"
舗装工	区画線工	区画線	m	10	ただし 100m 未満は 1m
舗装工		区画線消去	m	1	
地盤改良工	路床安定処理工	安定処理	m <sup>2</sup>	10	ただし 1000 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>
地盤改良工	表層安定処理	サンドマット	m <sup>2</sup>	10	
地盤改良工		安定シート	m <sup>2</sup>	10	
地盤改良工		表層混合処理	m <sup>2</sup>	10	
地盤改良工		置換	m <sup>3</sup>	100	ただし 1000m <sup>3</sup> 未満は 10m <sup>3</sup>
地盤改良工	置換工	置換	m <sup>3</sup>	100	"
地盤改良工	サンドマット工	サンドマット	m <sup>2</sup>	10	
地盤改良工		安定シート	m <sup>2</sup>	10	
地盤改良工	ハイルネット工	既製コンクリート杭	本	1	
地盤改良工		木杭	本	1	
地盤改良工		連結鉄筋	t	0.1	ただし 1t 未満は 0.01t
地盤改良工		安定シート	m <sup>2</sup>	10	
地盤改良工		サンドマット	m <sup>2</sup>	10	
地盤改良工	ハチカルドレーン工	サンドドレーン	本	1	
地盤改良工		袋詰式サンドドレーン	本	1	
地盤改良工		ペーパードレーン	本	1	
地盤改良工	締固め改良工	サンドコンパクションパイル	本	1	
地盤改良工	固結工	粉体噴射攪拌	本	1	
地盤改良工		高圧噴射攪拌	本	1	
地盤改良工		スラリー攪拌	本	1	
地盤改良工		薬液注入	本	1	
構造物撤去工	構造物取壊工	コンクリート構造物取壊し	m <sup>3</sup>	1	
構造物撤去工		舗装版取壊し	m <sup>2</sup>	10	ただし 1000 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>
構造物撤去工		石積取壊し	m <sup>2</sup>	10	ただし 100 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>
構造物撤去工		コンクリートはつり	m <sup>2</sup>	1	ただし 10 m <sup>2</sup> 未満は 0.1 m <sup>2</sup>
構造物撤去工		吹付法面取壊し	m <sup>2</sup>	10	ただし 100 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>
構造物撤去工		鋼材切断	箇所	1	
構造物撤去工		鋼矢板引抜	枚	1	
構造物撤去工		H鋼杭引抜	本	1	
構造物撤去工		コンクリートブロック撤去	m <sup>2</sup>	10	ただし 100 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>
構造物撤去工		根固ブロック撤去	個	1	
構造物撤去工		殻運搬処理	m <sup>3</sup>	1	
構造物撤去工		現場発生産品運搬	回	1	
構造物撤去工	道路施設撤去工	側溝・街渠撤去	m	1	
構造物撤去工		集水桝・マンホール撤去	基	1	
構造物撤去工		蓋版撤去	枚	1	

工種	種別	細別	単位	数値	備考
構造物撤去工		防護・防止柵撤去	m	1	
構造物撤去工		視線誘導標撤去	本	1	
構造物撤去工		境界杭撤去	本	1	
構造物撤去工		道路鋸撤去	個	1	
構造物撤去工		車線分離標撤去	本	1	
構造物撤去工		境界鋸撤去	枚	1	
構造物撤去工		距離標撤去	本	1	
構造物撤去工		横断歩道橋側板(裾隠・目隠)撤去	m <sup>2</sup>	1	
構造物撤去工		車止めポスト撤去	本	1	
構造物撤去工		遮光フェンス撤去	m	1	
構造物撤去工		標識撤去	基	1	
構造物撤去工		境界ブロック撤去	m	1	
構造物撤去工		道路植栽撤去	本	1	
構造物撤去工		ケーブル配管撤去	m	1	
構造物撤去工		照明柱撤去	基	1	
構造物撤去工	かご撤去工	じゃかご撤去	m	1	
構造物撤去工		ふとんかご撤去	m	1	
構造物撤去工	落石雪害防止撤去工	落石防護柵撤去	m	1	
構造物撤去工		落石防止網(繊維網)撤去	m <sup>2</sup>	1	
構造物撤去工	ブロック舗装撤去	インターロッキングブロック撤去	m <sup>2</sup>	1	
構造物撤去工		コンクリート平板ブロック撤去	m <sup>2</sup>	1	
構造物撤去工		ノンスリップ撤去	m	1	
構造物撤去工	冬季安全施設撤去工	吹溜式防雪柵撤去	m	1	
構造物撤去工		吹払式防雪柵撤去	m	1	
構造物撤去工		スノーポール撤去	本	1	
構造物撤去工	旧橋撤去工	鋼製高欄撤去	m	1	
構造物撤去工		舗装版・床版破碎及び撤去	m <sup>3</sup>	1	
構造物撤去工		桁材撤去	t	1	
仮設工	仮設工	覆工板・敷鉄板	m <sup>2</sup>	1	
仮設工		覆工板受桁・桁受	t	0.1	数量契約の場合は0.1t
仮設工		鋼矢板	枚	1	
仮設工		H鋼杭	本	1	
仮設工		アンカー	本	1	
仮設工		タイロッド	t	0.1	数量契約の場合は0.1t
仮設工		切梁・腹起し	t	0.1	"
仮設工		横矢板	m <sup>2</sup>	1	
仮設工	水替工	ポンプ排水	日	1	
仮設工	地下水位低下工	ウエルポイント	日	1	
仮設工		ディーブウエル	日	1	
仮設工	連続地中壁工	連続壁(壁式)	1/2t	1	
仮設工		連続壁(柱列式)	セット	1	
仮設工	汚濁防止工	汚濁防止フェンス	m	1	
仮設工	防護施設工	発破防護柵	m <sup>2</sup>	10	
仮設工		仮囲い・立入防止柵	m	1	
仮設工	土のう工	大型土のう	袋	1	
仮設工	足場工	手摺先行型枠組足場	掛m <sup>2</sup>	10	
コンクリート構造物		基礎材	m <sup>2</sup>	10	ただし100m <sup>2</sup> 未満は1m <sup>2</sup>
コンクリート構造物		均しコンクリート	m <sup>2</sup>	10	"

工種	種別	細別	単位	数値	備考
コンクリート構造物		コンクリート	m <sup>3</sup>	1	
コンクリート構造物		二次コンクリート	m <sup>3</sup>	1	
コンクリート構造物		鉄筋	t	0.01	
コンクリート構造物		目地材	m <sup>2</sup>	1	
コンクリート構造物		止水板	m	1	
コンクリート構造物		型枠	m <sup>2</sup>	10	ただし 100 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>
コンクリート構造物		足場	掛 m <sup>2</sup>	10	
コンクリート構造物		支保	空 m <sup>3</sup>	10	
コンクリート構造物		植石張り	m <sup>2</sup>	1	
コンクリート構造物		水抜パイプ	m	1	
コンクリート構造物		スリップバー	本	1	
コンクリート構造物		防水モルタル	m <sup>3</sup>	1	
コンクリート構造物		アンカーボルト	本	1	
コンクリート構造物		有孔管	m	1	
コンクリート構造物		可撓継手	箇所	1	
構造物	帯状構造物 (小規模)工		m	1	各種ブロック(既 製品共) H=2.0m未満の 擁壁類
構造物	帯状構造物 (大規模)工		m	0.1	H=2.0m以上の 擁壁類
構造物	排水構造物工		m	1	ただし径1m以 上の管渠類は 0.1m
工場製作工	製作工	製作加工	t	0.1	ただし1t未満 は0.01t
工場製作工		ボルト・ナット	組	1	
工場製作工		スタッドジベル	本	1	
工場製作工		バックアップ	m <sup>3</sup>	0.1	
工場製作工		充填シール	m <sup>3</sup>	0.1	
工場製作工		アンカーボルト	組	1	
工場製作工	鋳造費	金属支承	個	1	
工場製作工		大型ゴム支承	個	1	
工場製作工		排水柵	個	1	
工場製作工		橋名板	枚	1	
工場製作工		橋歴板	枚	1	
工場製作工	工場塗装工	前処理	m <sup>2</sup>	10	ただし 100 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>
工場製作工		塗装(下・中・上塗)	m <sup>2</sup>	10	"
工場製作工		メッキ	t	0.1	
工場製品輸送工	輸送工	輸送	t	0.1	ただし 1t 未満 は 0.01t
工場製品輸送工		小運搬	t	0.1	"
付属施設	縁石工	歩車道境界ブロック	m	1	
付属施設		地先境界ブロック	m	1	
付属施設		植樹ブロック	m	1	
付属施設		アスカープ	m	10	
付属施設	集水柵・街渠 柵・マンホール工	集水柵	箇所	1	フレキャスト含む
付属施設		街渠柵	箇所	1	"
付属施設		マンホール	箇所	1	
付属施設		蓋	枚	1	
付属施設	路側防護柵工	ガードレール	m	1	
付属施設		ガードパイプ	m	1	
付属施設		ガードケーブル	m	1	

工種	種別	細別	単位	數位	備考
付属施設		ボックスビーム	m	1	
付属施設		立入防止柵	m	1	
付属施設		転落（横断）防止柵	m	1	
付属施設		車止めポスト	本	1	
付属施設	階段工	現場打階段	m <sup>2</sup>	1	
付属施設		プレキャスト階段	m <sup>2</sup>	1	
付属施設	境界工	境界杭	本	1	
付属施設		境界鉋	枚	1	
付属施設		境界（法留）壁	m	1	
付属施設	落石防護柵工	落石防護柵	m	1	
付属施設		ロープ・金網	m	1	
付属施設		支柱	本	1	
付属施設		ステーロープ	本	1	
付属施設	防雪柵工	防雪柵	m	1	
付属施設	雪崩予防柵工	雪崩予防柵基礎	基	1	
付属施設		雪崩予防柵	基	1	
付属施設		雪崩予防柵アンカー	本	1	
付属施設	落石防止網工	ロックネット	m <sup>2</sup>	10	ただし 100 m <sup>2</sup> 未滿は 1 m <sup>2</sup>
付属施設		繊維柵	m <sup>2</sup>	10	"
付属施設	遮音壁基礎工	支柱アンカーボルト	箇所	1	
付属施設	遮音壁本体工	遮音壁	m	1	
付属施設		外装板	m <sup>2</sup>	1	
付属施設	ケーブル配管工	ケーブル配管	m	1	
付属施設		ハンドホール	箇所	1	
付属施設	道路付属物工	視線誘導標	本	1	
付属施設		車線分離標	本	1	
付属施設		距離標	本	1	
付属施設		道路鉋	個	1	
付属施設	踏掛版工	縦目地	m	1	
付属施設		横目地	m	1	
付属施設		ゴム支承	m <sup>2</sup>	1	
付属施設		アンカーボルト	本	1	
付属施設	照明工	照明柱基礎	基	1	
付属施設		照明柱	基	1	
付属施設	銘板工	銘板	枚	1	
付属施設		表示板	枚	1	
付属施設	小型標識工	標識柱	基	1	
付属施設		標識板	枚	1	
付属施設	大型標識工	標識基礎	基	1	
付属施設		片持標識柱	基	1	
付属施設		門型標識柱	基	1	
付属施設		標識板	枚	1	
付属施設		着雪防止板	枚	1	
付属施設	道路植栽工	植樹帯盛土	m <sup>3</sup>	1	注 1
付属施設		植樹	本	1	
付属施設		地被類植付	m <sup>2</sup>	1	
付属施設		支柱	箇所	1	
付属施設		樹名板	枚	1	
付属施設	アンカー工	アンカー	本	1	
付属施設		アンカー（プレキャストコンクリート板）	本	1	
付属施設		アンカー足場	空 m <sup>3</sup>	10	
付属施設		PCフレーム	枚	1	
付属施設		鉄筋挿入	本	1	
付属施設	点検施設工	梯子	箇所	1	
付属施設		ステップ	本	1	



工種	種別	細別	単位	數位	備考
付属施設		蓋	枚	1	
付属施設	グ'ラウトホール工	グ'ラウトホール	箇所	1	
付属施設	観測施設工	量水標	箇所	1	
付属施設		水位計	箇所	1	
付属施設		流量計	箇所	1	
付属施設	燃料貯油槽工	充填砂	m <sup>3</sup>	10	
河川構造物	土台基礎工	土台	m	1	
河川構造物	笠コンクリート工	笠コンクリート	m	1	
河川構造物		笠コンクリートブロック	m	1	
河川構造物	護岸付属物工	横帯コンクリート	m	0.1	
河川構造物		小口止	m	0.1	
河川構造物		小口止矢板	枚	1	
河川構造物		縦帯コンクリート	m	1	
河川構造物		巻止コンクリート	m	1	
河川構造物		平張コンクリート	m <sup>2</sup>	1	
河川構造物	多自然型護岸工	木杭	本	1	
河川構造物		巨石張(積)	m <sup>2</sup>	1	
河川構造物		巨石据付	m <sup>2</sup>	1	
河川構造物		雑割石張	m <sup>2</sup>	1	
河川構造物		かごマット	m <sup>2</sup>	1	
河川構造物		柳枝	m <sup>2</sup>	1	
河川構造物		玉石階段	m <sup>2</sup>	1	
河川構造物		杭柵	m	1	
河川構造物		連柴柵	m	1	
河川構造物		粗朶法覆	m <sup>2</sup>	1	
河川構造物		玉石柳枝	m <sup>2</sup>	1	
河川構造物		栗石粗朶	m <sup>2</sup>	1	
河川構造物	覆土工	覆土	m <sup>3</sup>	100	ただし 1000m <sup>3</sup> 未満は 10m <sup>3</sup>
河川構造物	間詰工	間詰コンクリート	m <sup>3</sup>	1	
河川構造物		間詰石	m <sup>3</sup>	1	
河川構造物	沈床工	沈床	m <sup>2</sup>	1	
河川構造物		粗朶単床	m <sup>2</sup>	1	
河川構造物		粗朶柵	m	1	
河川構造物	捨石工	捨石	m <sup>3</sup>	1	
河川構造物		表面均し	m <sup>2</sup>	10	
河川構造物	元付工	元付	箇所	1	
河川構造物	牛・枠工	牛	組	1	
河川構造物		枠	組	1	
河川構造物	杭出し水制工	杭出し水制	基	1	
河川構造物	基礎工	現場打基礎	m	1	
河川構造物		プレキャスト基礎	m	1	
河川構造物	根固めフ'ロック工	根固めブロック製作	個	1	
河川構造物		根固めブロック据付	個	1	
河川構造物		袋詰玉石	袋	1	
河川構造物	フ'ロック床版工	場所打ブロック	m <sup>2</sup>	1	
河川構造物	函渠工	PC函渠	m	0.1	
河川構造物		可撓継手	箇所	1	
河川構造物		取替式止水板	箇所	1	
河川構造物		函渠接続	箇所	1	
河川構造物	側壁工	裏込石	m <sup>3</sup>	1	
砂防	コンクリート・鋼製 堰堤本体・副 堤工	堤冠コンクリート	m <sup>3</sup>	1	

工種	種別	細別	単位	數位	備考
砂防		水抜暗渠	m	0.1	
砂防		鋼製枠	t	0.1	
砂防		枠内中詰	m <sup>3</sup>	1	
砂防		足場	m	1	
砂防		隔壁コンクリート基礎	m <sup>3</sup>	1	
砂防		均しコンクリート	m <sup>2</sup>	10	ただし 100 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>
砂防		残存型枠	m <sup>2</sup>	10	"
砂防	鋼製砂防工	組立・据付	t	1	
砂防		本締め	本	1	
砂防		アンカー	本	1	
砂防		現場塗装	m <sup>2</sup>	1	
砂防	コンクリート側壁工	均しコンクリート	m <sup>2</sup>	10	ただし 100 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>
砂防		水抜暗渠	m	0.1	
砂防	集排水ホーリング工	ボーリング	m	0.1	
砂防		ボーリング洗浄	m	0.1	
砂防		保孔管	m	1	
砂防		ボーリング仮設機材	式	1	
砂防	集水井工	集水井掘削	m	1	
砂防		井戸中詰	m <sup>3</sup>	1	
砂防		プレキャスト井筒	m	1	
砂防		固定基礎コンクリート	m	1	
砂防		底張コンクリート	m <sup>3</sup>	1	
砂防		井戸蓋	枚	1	
海岸	海岸コンクリート (根固・消波)ブロック工	海岸コンクリート(根固・消波)ブロック 製作	個	1	
海岸		海岸コンクリート(根固・消波)ブロック 据付	個	1	
海岸	護岸工	裏込(砕)石	m <sup>3</sup>	1	
海岸		石材	m <sup>3</sup>	1	
海岸	コンクリート被覆工	コンクリート	m <sup>2</sup>	10	ただし 1000 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>
海岸	捨石工	中詰石	m <sup>3</sup>	1	
海岸		捨石	m <sup>3</sup>	1	
海岸		捨石均し	m <sup>2</sup>	10	
海岸		表面均し	m <sup>2</sup>	10	
海岸	被覆石工	被覆石据付	m <sup>3</sup>	1	
海岸		被覆石均し	m <sup>2</sup>	10	
海岸	被覆ブロック工	被覆ブロック据付	個	1	
海岸	矢板工	鋼矢板防食	m <sup>2</sup>	1	
海岸	詰杭工	既製コンクリート杭	本	1	
海岸		コンクリートパネル	枚	1	
海岸		中詰石	m <sup>3</sup>	1	
海岸		表面均し	m <sup>2</sup>	10	
海岸	石枠工	コンクリート枠製作	個	1	
海岸		コンクリート枠据付	個	1	
海岸		中詰石	m <sup>3</sup>	1	
海岸		捨石均し	m <sup>2</sup>	10	
海岸	ケーソン・セル工	ケーソン等運搬・据付	個	1	
海岸		中詰砂・石	m <sup>3</sup>	1	
海岸		表面均し	m <sup>2</sup>	10	
浚渫工	浚渫船運転工 (ホップ浚渫船)	浚渫船運転	m <sup>3</sup>	100	ただし 1000 m <sup>3</sup> 未満は 10 m <sup>3</sup>

工種	種別	細別	単位	数値	備考
浚渫工		排砂管(設備)	m	1	
浚渫工		浚渫船等機械管理費	日	1	
浚渫工		排砂管保守	日	1	
浚渫工	作業船及び機械運転工(ポンプ浚渫船)	中継ポンプ運転	台	1	
浚渫工		揚錨船運転	日	1	
浚渫工		交通船運転	日	1	
浚渫工		警戒船運転	日	1	
浚渫工	浚渫船運転工(クランプ浚渫船)	浚渫船運転	m <sup>3</sup>	100	ただし 1000 m <sup>3</sup> 未満は 10 m <sup>3</sup>
浚渫工		浚渫船等機械管理費	日	1	
浚渫工	作業船及び機械運転工(クランプ浚渫船)	揚錨船運転	日	1	
浚渫工		交通船運転	日	1	
浚渫工		土運搬船運転	日	1	
浚渫工		曳船運転	日	1	
浚渫工		警戒船運転	日	1	
浚渫工	バックホウ浚渫船	バックホウ浚渫船運転	m <sup>3</sup>	100	ただし 1000 m <sup>3</sup> 未満は 10 m <sup>3</sup>
浚渫工		繋船運転	日	1	
浚渫工		土運搬船運転	日	1	
浚渫工		浚渫土揚土	日	1	
浚渫工	配土工	配土	日	1	
浚渫工	浚渫土処理工	浚渫土処理	m <sup>3</sup>	10	
橋梁上部工	地組工	地組	t	0.1	ただし 1t 未満は 0.01t
橋梁上部工	床版工	床版架設	m <sup>2</sup>	1	
橋梁上部工	架設工	各種設備・基礎	式	1	
橋梁上部工		桁架設	t	0.1	ただし 1t 未満は 0.01t
橋梁上部工	現場継手工	本締めボルト	本	1	
橋梁上部工	支承工	金属支承設置	個	1	
橋梁上部工		大型ゴム支承設置	個	1	
橋梁上部工	伸縮装置工	ゴム製伸縮装置	m	0.1	
橋梁上部工		鋼製伸縮装置	t	0.1	
橋梁上部工		埋設ジョイント	箇所	1	
橋梁上部工	落橋防止装置工	落橋防止装置	箇所	1	
橋梁上部工	排水装置工	排水樹	箇所	1	
橋梁上部工		排水管	m	1	
橋梁上部工	地覆工	場所打地覆	m	1	
橋梁上部工		プレキャスト地覆	m	1	
橋梁上部工	橋梁用防護柵工	橋梁用防護柵	m	1	
橋梁上部工	橋梁用高欄工	橋梁用高欄	m	1	
橋梁上部工	検査路工	検査路	t	0.1	
橋梁上部工	銘板工	橋名板	枚	1	
橋梁上部工		橋歴板	枚	1	
歩道橋本体工	橋脚フーチング工	アンカーフレーム架設	基	1	
歩道橋本体工		アンカーフレーム注入工	基	1	
歩道橋本体工	歩道橋架設工	歩道橋架設	t	0.1	
歩道橋本体工		橋面舗装	m <sup>2</sup>	10	ただし 1000 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>

工種	種別	細別	単位	數位	備考
歩道橋本体工		手摺	m	1	
歩道橋本体工		高欄	橋	1	
歩道橋本体工		足場	m <sup>2</sup>	10	
歩道橋本体工		防護	m <sup>2</sup>	10	
鋼橋足場等設置工	橋梁足場工	架設足場	m <sup>2</sup>	10	
鋼橋足場等設置工		床版足場	m <sup>2</sup>	10	
鋼橋足場等設置工		塗装足場	m <sup>2</sup>	10	
鋼橋足場等設置工		側面塗装足場	m <sup>2</sup>	10	
鋼橋足場等設置工		支承設置用足場	m	1	
鋼橋足場等設置工	橋梁防護工	板張防護	m <sup>2</sup>	10	
鋼橋足場等設置工		シート張防護	m <sup>2</sup>	10	
鋼橋足場等設置工		ワイヤ・フリップ 防護	m <sup>2</sup>	10	
鋼橋足場等設置工	昇降用設備工	登り棧橋	箇所	1	
鋼橋足場等設置工		工事用エレベーター	基	1	
コンクリート橋上部工	桁製作工・床版・横組工	プレテンション桁製作	本	1	
コンクリート橋上部工		ポストテンション桁製作	本	1	
コンクリート橋上部工		プレキャストセグメント製作	本	1	
コンクリート橋上部工		プレキャストセグメント主桁組立	本	1	
コンクリート橋上部工		プレピーム桁製作	本	1	
コンクリート橋上部工		機械器具損料	式	1	
コンクリート橋上部工		P C ケーブル	m	1	
コンクリート橋上部工		P C ケーブル	t	0.1	ただし 1t 未満は 0.01t
コンクリート橋上部工		P C ケーブル・緊張	ケーブル	1	
コンクリート橋上部工		緊張	ケーブル	1	
コンクリート橋上部工		P C 鋼棒	m	1	
コンクリート橋上部工		P C 緊張	箇所	1	
コンクリート橋上部工		P C 固定	箇所	1	
コンクリート橋上部工		P C 継手	箇所	1	
コンクリート橋上部工		横締めケーブル	m	1	
コンクリート橋上部工		鉛直締めケーブル	m	1	
コンクリート橋上部工		横締め緊張	箇所	1	
コンクリート橋上部工		鉛直締め緊張	箇所	1	
コンクリート橋上部工		取付桁結合解放	回	1	
コンクリート橋上部工		プレフレクション	回	1	
コンクリート橋上部工		リリース	回	1	
コンクリート橋上部工		主桁解体	主桁本	1	
コンクリート橋上部工		桁組立	主桁本	1	
コンクリート橋上部工		横桁取付	箇所	1	
コンクリート橋上部工		部分プレストレス	径間	1	
コンクリート橋上部工		移動型枠	m <sup>2</sup>	1	
コンクリート橋上部工		円筒型枠	m	1	
コンクリート橋上部工		主桁製作設備	式	1	
コンクリート橋上部工	架設工	桁小運搬	本	1	
コンクリート橋上部工		桁架設	本	1	
コンクリート橋上部工		柱頭部仮支承	m <sup>2</sup>	1	
コンクリート橋上部工		桁架設(片持架設)	基	1	
コンクリート橋上部工		ベント基礎	式	1	
コンクリート橋上部工		押出装置	基	1	
コンクリート橋上部工		滑り装置	基	1	
コンクリート橋上部工		手延べ桁	基	1	
コンクリート橋上部工		桁架設(押出架設)	回	1	
コンクリート橋上部工	落橋防止装置工	落橋防止装置	組	1	
コンクリート橋上部工	架設支保工	支保工基礎	m <sup>2</sup>	1	

工種	種別	細別	単位	數位	備考
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工		支保	空m <sup>3</sup>	10	
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工	支承工	ゴム支承	個	1	
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工		金属支承設置	個	1	
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工		変位制限装置	組	1	
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工		ジョイントプロテクター	組	1	
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工	橋梁付属物工	ゴム製伸縮装置	m	0.1	
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工		鋼製伸縮装置	t	0.1	
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工		埋設ジョイント	m	1	
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工		排水柵	箇所	1	
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工		排水管	m	1	
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工		場所打地覆	m	1	
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工		プレキャスト地覆	m	1	
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工		橋梁用防護柵	m	1	
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工		橋梁用高欄	m	1	
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工		検査路	t	0.1	
ｺﾝｸﾘｰﾄ橋上部工		銘板	枚	1	
トンネル(NATM)	トンネル掘削工	掘削	m	0.1	
トンネル(NATM)	支保工	吹付	m	0.1	
トンネル(NATM)		ロックボルト	m	0.1	
トンネル(NATM)		鋼製支保	m	0.1	
トンネル(NATM)		金網	m	0.1	
トンネル(NATM)	覆工	覆工コンクリート	m	0.1	
トンネル(NATM)		覆工コンクリート(妻部)	箇所	1	
トンネル(NATM)		側壁コンクリート	m	0.1	
トンネル(NATM)		床版コンクリート	m	0.1	
トンネル(NATM)		トンネル防水	m	0.1	
トンネル(NATM)	インバート工	掘削	m	0.1	
トンネル(NATM)		インバート	m	0.1	
トンネル(NATM)	坑内付帯工	箱抜	箇所	1	
トンネル(NATM)		裏面排水	m	1	
トンネル(NATM)		湧水処理	箇所	1	
トンネル(NATM)		中央排水	m	1	
トンネル(NATM)		横断排水	箇所	1	
トンネル(NATM)		集水柵	箇所	1	
トンネル(NATM)	坑門工	斜面ボルト	本	1	
トンネル(NATM)		坑口処理	箇所	1	
トンネル(NATM)		型枠(セントル)	m <sup>2</sup>	10	
トンネル(NATM)	掘削補助工A	フォアパイリング	本	1	
トンネル(NATM)		先受け矢板	枚	1	
トンネル(NATM)		岩盤固結	m <sup>3</sup>	10	ただし100m <sup>3</sup> 未満は1m <sup>3</sup>
トンネル(NATM)		増し吹付	m <sup>2</sup>	1	
トンネル(NATM)		増しロックボルト	本	1	
トンネル(NATM)		鏡吹付	m <sup>2</sup>	1	
トンネル(NATM)		鏡ロックボルト	本	1	
トンネル(NATM)		仮インバート	m <sup>2</sup>	1	
トンネル(NATM)		ミニパイプルーフ	本	1	
トンネル(NATM)	掘削補助工B	水抜きボーリング	本	1	
トンネル(NATM)		垂直縫地	本	1	
トンネル(NATM)		パイプルーフ	本	1	
トンネル(NATM)		押え盛土	m <sup>3</sup>	100	ただし1000 m <sup>3</sup> 未満は10 m <sup>3</sup>
トンネル(NATM)		薬液注入	m <sup>3</sup>	10	
トンネル(NATM)		ディープウェル	日	1	
トンネル(NATM)		ウェルポイント	日	1	

工種	種別	細別	単位	數位	備考
トンネル(NATM)		トンネル仮巻きコンクリート	m	1	
トンネル(矢板)	掘削工	掘削	m	0.1	
トンネル(矢板)	支保工	鋼製支保	基	1	
トンネル(矢板)	覆工	覆工コンクリート	m	0.1	
トンネル(矢板)		止水板	m	1	
トンネル(矢板)		床版コンクリート	m	1	
トンネル(矢板)		裏込注入	m <sup>3</sup>	1	
トンネル(矢板)	インパート工	掘削	m	0.1	
トンネル(矢板)		インパート	m	0.1	
トンネル(矢板)	坑内付帯工	箱抜	箇所	1	
トンネル(矢板)		裏面排水	m	1	
トンネル(矢板)		湧水処理	箇所	1	
トンネル(矢板)		中央排水	m	1	
トンネル(矢板)		横断排水	箇所	1	
トンネル(矢板)		集水樹	箇所	1	
共同溝	掘削工	掘削	m <sup>3</sup>	1	注1
共同溝	埋戻し工	埋戻し	m <sup>3</sup>	1	注1
共同溝	現場打構築工	防水	m <sup>2</sup>	10	ただし100m <sup>2</sup> 未満は1m <sup>2</sup>
共同溝		防水保護	m <sup>2</sup>	10	"
共同溝		防水壁	箇所	1	
共同溝		目地材	m <sup>2</sup>	1	
共同溝		止水板	m	1	
共同溝	プレキャスト構築工	プレキャスト躯体	個	1	
共同溝		PC鋼材	m	1	
共同溝		縦・横締め緊張	箇所	1	
共同溝		可とう継手	箇所	1	
共同溝		コーキング	m	1	
共同溝		シール	m	1	
共同溝	付帯設備工	グレーチング	組	1	
共同溝		蓋	組	1	
共同溝		排水管	m	1	
共同溝		ルーフトレーン	個	1	
共同溝		換気防護柵	箇所	1	
共同溝		梯子	本	1	
共同溝		ステップ	本	1	
共同溝		タラップ	本	1	
共同溝		手すり	m	1	
共同溝		銘板	枚	1	
電線共同溝	掘削工	掘削	m <sup>3</sup>	1	注1
電線共同溝	埋戻し工	埋戻し	m <sup>3</sup>	1	注1
電線共同溝	電線共同溝工	管路	m	1	
電線共同溝		プレキャストボックス	個	1	
電線共同溝		蓋	枚	1	
電線共同溝	付帯設備工	ハンドホール	箇所	1	
植栽維持工	樹木・芝生管理工	樹木せん定	本	1	
植栽維持工		寄植せん定	m <sup>2</sup>	10	
植栽維持工		補植	本	1	
植栽維持工		移植	本	1	
植栽維持工		支柱	本	1	
植栽維持工		抜根除草	m <sup>2</sup>	10	
植栽維持工		樹木施肥	本	1	
植栽維持工		寄植・芝施肥	m <sup>2</sup>	10	
植栽維持工		灌水	m <sup>2</sup>	10	

工種	種別	細別	単位	數位	備考
植栽維持工		防除	本	1	
植栽維持工		寄植・芝薬剤散布	m <sup>2</sup>	10	
植栽維持工		芝刈	m <sup>2</sup>	100	注3
河川維持	河川巡視工	緊急巡視	回	1	
河川維持	堤防除草工	除草	m <sup>2</sup>	100	注3
河川維持	芝養生工	施肥	m <sup>2</sup>	100	注3
河川維持		抜根	m <sup>2</sup>	100	注3
河川維持	伐木除根	伐木除根	m <sup>2</sup>	100	注3
河川維持	塵芥処理工	散在塵芥収集	m <sup>2</sup>	100	注3
河川維持		堆積塵芥収集	m <sup>3</sup>	10	ただし100m <sup>3</sup> 未満は1m <sup>3</sup>
河川維持	水面清掃工	水面清掃	日	1	
河川維持	応急処理事業	応急作業	日	1	
道路修繕	路面切削工	路面切削	m <sup>2</sup>	10	ただし1000 m <sup>2</sup> 未満は1m <sup>2</sup>
道路修繕	舗装打換え工	舗装版切断	m	10	ただし100m 未満は1m
道路修繕		舗装版破砕	m <sup>2</sup>	10	ただし1000 m <sup>2</sup> 未満は1m <sup>2</sup>
道路修繕	切削オーバーレイ工	切削オーバーレイ	m <sup>2</sup>	10	ただし1000 m <sup>2</sup> 未満は1m <sup>2</sup>
道路修繕	舗装打換え工・オーバーレイ工	中間層	m <sup>2</sup>	10	ただし1000 m <sup>2</sup> 未満は1m <sup>2</sup>
道路修繕	路上再生路盤工	路上再生路盤	m <sup>2</sup>	10	ただし1000 m <sup>2</sup> 未満は1m <sup>2</sup>
道路修繕	路上表層再生工	路上表層再生	m <sup>2</sup>	10	ただし1000 m <sup>2</sup> 未満は1m <sup>2</sup>
道路修繕	床版補強工 (鋼板接着・ 増桁架設工 法)	鋼板接着	m <sup>2</sup>	1	
道路修繕		クラック処理	m	1	
道路修繕		足場	m <sup>2</sup>	10	
道路修繕		防護	m <sup>2</sup>	10	
道路修繕		増桁架設	t	0.1	ただし1t未満 は0.01t
道路修繕	床版増厚補強工	表面荒らし	m <sup>2</sup>	1	
道路修繕	床版取替工	プレキャストPC床版取替	m <sup>2</sup>	1	
道路修繕		鋼製高欄取替	m	1	
道路修繕		床版運搬処理	m <sup>3</sup>	1	
道路修繕	鋼桁補強工	現場溶接鋼桁補強	m	1	
道路修繕	伸縮継手工	鋼製伸縮継手補修	m	0.1	
道路修繕		埋設ジョイント補修	m	0.1	
道路修繕	鋼橋・PC支 承工	支承取替	基	1	
道路修繕	検査路工	検査路	t	0.1	
道路修繕	沓座拡幅工	チップング	m <sup>2</sup>	1	ただし10m <sup>2</sup> 未 満は0.1m <sup>2</sup>
道路修繕		削孔	孔	1	
道路修繕		アンカーボルト挿入	本	1	
道路修繕		鋼製沓座設置	箇所	1	
道路修繕	排水施設工	排水柵	箇所	1	
道路修繕		排水管	m	1	
道路修繕	横断歩道橋工	高欄・手摺	t	0.1	
道路修繕		側板	t	0.1	
道路修繕		ノンスリップ	m	1	

工種	種別	細別	単位	数値	備考	
道路修繕	橋梁補強工(鋼板巻立て)	鋼板巻立て	m <sup>2</sup>	1		
道路修繕		現場溶接	m	1		
道路修繕		フーチングアンカー	箇所	1		
道路修繕		根巻きコンクリート	m <sup>3</sup>	1		
道路修繕	橋梁補強工(コンクリート巻立て)	コンクリート削孔	箇所	1		
道路修繕		コンクリート巻立て	m <sup>3</sup>	1		
道路修繕		下地処理	m <sup>2</sup>	1		
道路修繕	現場塗装工	素地調整	m <sup>2</sup>	10	ただし 100 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>	
道路修繕		塗装(下・中・上塗)	m <sup>2</sup>	10	ただし 100 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>	
道路修繕		張紙防止塗装	m <sup>2</sup>	10	ただし 100 m <sup>2</sup> 未満は 1 m <sup>2</sup>	
道路修繕		コンクリート面清掃	m <sup>2</sup>	1		
道路修繕	トンネル工	内装板	m <sup>2</sup>	1		
道路修繕		裏込注入	m <sup>3</sup>	1		
道路修繕		面導水	m <sup>2</sup>	1		
道路修繕		線導水	m	1		
道路維持	巡視・巡回工	通常巡回	回	1		
道路維持		緊急巡回	回	1		
道路維持	コンクリート舗装補修工	アスファルト注入	t	0.1	ただし 1t 未満は 0.01t	
道路維持		舗装版目地補修	m	1		
道路維持		クラック処理	m	1		
道路維持	アスファルト舗装維持工	わだち掘れ補修	m <sup>2</sup>	1		
道路維持		パッチング	t	0.1		
道路維持	付属物復旧工	ガードレール復旧	m	1		
道路維持		ガードケーブル復旧	m	1		
道路維持		ガードパイプ復旧	m	1		
道路維持		転落(横断)防止柵復旧	m	1		
道路維持		路側標識復旧	基	1		
道路維持		標識板復旧	枚	1		
道路維持		視線誘導標復旧	本	1		
道路維持		距離標復旧	本	1		
道路維持		張紙防止シート復旧	m <sup>2</sup>	1		
道路維持		路面清掃工	路面清掃(機械)	km	0.1	
道路維持			路面清掃(路肩部・人力)	km	0.1	
道路維持			路面清掃(歩道・人力)	m <sup>2</sup>	1	
道路維持			路面清掃(歩道橋・地下道・人力)	m <sup>2</sup>	1	
道路維持			路面清掃(中央分離帯・人力)	m <sup>2</sup>	1	
道路維持		路肩整正	路肩整正(機械)	km	0.1	
道路維持			路肩整正(人力)	m <sup>2</sup>	100	
道路維持	排水施設清掃工	側溝清掃(人力)	m	10		
道路維持		側溝清掃(機械)	km	0.01		
道路維持		管渠清掃	m	10		
道路維持		柵清掃	箇所	1		
道路維持	橋梁清掃工	伸縮継手清掃	m	1		
道路維持		排水管清掃	m	10		
道路維持	道路付属物清掃工	ガードレール清掃	km	0.1		
道路維持		ガードパイプ清掃	m	1		
道路維持		標識清掃	枚	1		
道路維持		トンネル照明器具清掃(機械)	km	0.1		



工種	種別	細別	単位	數位	備考
道路維持		トンネル照明器具清掃(人力)	灯	1	
道路維持		視線誘導標清掃	本	1	
道路維持		トンネル壁面清掃	m <sup>2</sup>	1	
道路維持	道路除草工	除草	m <sup>2</sup>	100	注3
道路維持	応急処理工	応急作業	日	1	
道路維持	冬季安全施設工	スノーポール設置・撤去	本	1	
道路維持		防雪柵	m	1	
道路維持		落雪(せり出し)防護柵	m	1	
道路維持		防雪柵現地張出・収納	m	1	
雪寒	一般・運搬・歩道除雪	各種	時間	1	
雪寒	凍結防止工	各種	時間	1	
雪寒		凍結防止剤	t	1	
雪寒		凍結防止剤		1	
雪寒	安全処理工	雪瑕疵処理	時間	1	
雪寒		つらら処理	時間	1	
雪寒		人工雪崩	式	1	
雪寒	雪道巡回工	巡回	回	1	
雪寒	待機補償費	要員・連絡員	時間	1	
雪寒		待機補償費	式	1	
雪寒	保険費	除雪保険	台	1	
雪寒	除雪機械修理工	除雪機械修理	式	1	
電気通信		ケーブル	m	10	ただし1000m未満は1m
電気通信		電線	m	10	ただし1000m未満は1m
電気通信		電線管	m	10	ただし1000m未満は1m
機械		鋼材類	t	0.01	ただし1t未満は0.001t
下水道		路線延長	m	0.01	代価表:0.01
下水道		管渠延長	m	0.01	代価表:0.01
下水道		取付管延長	m	0.1	代価表:0.1
下水道	管布設工	ヒューム管	本	1	注4
下水道		塩ビ管	本	0.1	代価表:0.1
下水道	土留工		m	0.1	代価表:0.1
下水道	管路土工	土工(本管)	m <sup>3</sup>		代価表:1
下水道		土工(取付管)	m <sup>3</sup>	1	代価表:0.01
下水道		土工(識験掘)	m <sup>3</sup>	1	代価表:0.1
下水道		土工(その他)	m <sup>3</sup>	1	代価表:0.1
下水道	水替工		日	1	代価表:1 注4
下水道	舗装撤去工	カッター切断工	m	0.1	代価表:0.1
下水道	管布設工	下水道管標示テープ巻工	箇所	1	
下水道		"	m	0.1	
下水道		下水道管標示テープ	巻	1	注4
下水道		下水道管標示シート工	m	0.01	
下水道		下水道管標示シート	m	0.01	
下水道		ポーリング長	m	0.01	代価表:0.01
下水道	舗装復旧工	舗装工	m <sup>2</sup>	0.1	代価表:0.01
下水道	舗装撤去工	舗装版破砕工	m <sup>2</sup>	0.1	代価表:0.1
下水道	コンクリート工		m <sup>3</sup>	0.1	代価表:0.01
下水道	モルタル工		m <sup>3</sup>		代価表:0.01
下水道	鉄筋工		kg	1	代価表:1
下水道	型枠工		m <sup>2</sup>	0.1	代価表:0.01
下水道	栗石工		m <sup>3</sup>	1	代価表:0.01

工種	種別	細別	単位	数位	備考
下水道	足場工		m <sup>2</sup>	1	代価表：1
下水道	型枠支保工		m <sup>3</sup>	1	代価表：1
下水道		コンクリート取り壊し	m <sup>3</sup>	1	代価表：0.1
下水道		鋼材重量	t	0.01	代価表：0.01
下水道		損料日数	日	1	
下水道		損料月数	月	1	
下水道		電力契約月数	月	1	注4
下水道		覆工板損料	月	1	注4

注1：ただし、有効数字3桁で単位止めとする、土砂10万m<sup>3</sup>以上は1000m<sup>3</sup>単位、岩類1万m<sup>3</sup>以上は10m<sup>3</sup>単位とすることができる。

注2：ただし、100m<sup>2</sup>以上は10m<sup>2</sup>単位とすることができる。

注3：ただし、1万m<sup>2</sup>未満は10m<sup>2</sup>。

注4：ただし、切り上げ

ただし、工種：下水道については下記とする。

- ・下水道・管路延長は、5cm単位でまとめること。
- ・下水道に関して、上記表に規定がないものについては、原則として切捨てとすること。
- ・軽微な工事等、数量が少ない場合は、別途考慮できるものとする。

## ・技術者等の経験年数等について（参考）

### 設計業務

職 階	大学卒	短大・高専卒	高校卒
管理技術者	18年以上	23年以上	28年以上
照査技術者	18年以上	23年以上	28年以上

技術士又はR C C M資格を有するもののほか、上記の経験年数をもって「同等の能力と経験を有する技術者」と判断してよい。

## ．下水道設計有資格者一覧表と法的根拠（参考）

下水道法施行令 第15条	区 分		要 件		資格取得に必要な下水道技術に関する実務経験年数		
	卒業又は修了した学校等	卒業又は修了した学科等	履修した学科目等	(注1) 計画設計	(注2) 監督管理等		
					処理施設 ホソフ施設	排水施設	
第1号	新制大学	土木工学科、衛生工学科又はこれらに相当する課程	下水道工学	7	2	1	
	旧制大学	土木工学科又はこれに相当する課程					
第2号	新制大学	土木工学科、衛生工学科又はこれらに相当する課程	下水道工学に関する学科目以外の学科目	8	3	1.5	
第3号	短期大学 高等専門学校 旧制専門学校	土木科又はこれに相当する課程		10	5	2.5	
第4号	新制高等学校 旧制中等学校	土木科又はこれに相当する課程		12	7	3.5	
第5号	前4号に定める学歴のない者				10	5	
第6号	新制大学の大学院		5年以上在学（卒業）	下水道工学	4	0.5	0.5
	新制大学の大学院又は専攻科 旧制大学の大学院又は研究科		1年以上在学	下水道工学	6	1	0.5
	短期大学の専攻科		1年以上在学	下水道工学	9	4	2
	国土建設学院		上下水道工学科		10	5	2.5
	外国の学校		日本の学校による学歴、経験年数に準ずる。				
	指定講習受講	国土交通省国土交通大学校		専門課程下水道研修		5	2.5
社団法人日本下水道協会		下水道監督管理等資格者講習会		5	2.5		
日本下水道事業団		下水道の設計又は工事の監督管理資格者講習会		5	2.5		
第7号	(注3) 日本下水道事業団法施行令第4条第1項に定める技術検定		第1種検定合格	(3)5	(1)2	1	
			第2種検定合格		(1)2	1	
第8号	技術士法による本試験		科目として下水道を選択し上下水道部門に合格したもの	0			

注1. 「計画設計」とは、事業計画に定めるべき事項に関する基本的な設計をいう。

注2. 「監督管理等」とは、実施設計（計画設計に基づく具体的な設計）又は工事の監督管理（その者の責任において工事を設計図書と照合し、それが設計図書のとおりに実施されているかどうかを確認すること。）をいう。

注3. この欄における経験年数は下水道、上水道、工業用水道、河川道路等に関する経験年数をいい、（）内に掲げる年数以上、下水道に関する実務経験を有する者に限る。

## 下水道法

(設計者等の資格)

第22条 公共下水道管理者は、公共下水道を設置し、又は改築する場合（政令で定める場合を除く。）においては、その設計（その者の責任において設計図書を作成することをいう。）又はその工事の監督管理（その者の責任において工事を設計図書と照合し、それが設計図書のとおり実施されているかどうかを確認することをいう。）については、政令で定める資格を有する者以外の者に行わせてはならない。

2. 省略

## 下水道法施行令

(公共下水道又は流域下水道の設計又は工事の監督管理を行う者の資格)

第15条 法第22条第1項（法第25条の10において準用する場合を含む。）に規定する政令で定める資格は、次のとおりとする。

- 1 学校教育法（昭和22年法律第26号）による大学（短期大学を除く。以下この条及び第15条の3において同じ。）の土木工学科、衛生工学科若しくはこれらに相当する課程において下水道工学に関する学科目を修めて卒業した後、又は旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学において土木工学科若しくはこれに相当する課程を修めて卒業した後、計画設計（事業計画に定めるべき事項に関する基本的な設計をいう。以下この条において同じ。）を行わせる場合については7年以上、処理施設又はポンプ施設に係る実施設計（計画設計に基づく具体的な設計をいう。）又は工事の監督管理（以下これらをこの条において「処理施設又はポンプ施設に係る監督管理等」という。）を行わせる場合については2年以上、排水施設に係る実施設計又は工事の監督管理（以下これらをこの条において「排水施設に係る監督管理等」という。）を行わせる場合については1年以上下水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者であること。
- 2 学校教育法による大学の土木工学科、衛生工学科又はこれらに相当する課程において下水道工学に関する学科目以外の学科目を修めて卒業した後、計画設計を行わせる場合については8年以上、処理施設又はポンプ施設に係る監督管理等を行わせる場合については3年以上、排水施設に係る監督管理等を行わせる場合については1年6月以上下水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者であること。
- 3 学校教育法による短期大学若しくは高等専門学校又は旧専門学校令（明治36年勅令第61号）による専門学校において土木科又はこれに相当する課程を修めて卒業した後、計画設計を行わせる場合については10年以上、処理施設又はポンプ施設に係る監督管理等を行わせる場合については5年以上、排水施設に係る監督管理等を行わせる場合については2年6月以上下水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者であること。
- 4 学校教育法による高等学校又は旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）による中等学校において土木科又はこれに相当する課程を修めて卒業した後、計画設計を行わせる場合については12年以上、処理施設又はポンプ施設に係る監督管理等を行わせる場合については7年以上、排水施設に係る監督管理等を行わせる場合につ

いては3年6月以上下水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者であること。

- 5 処理施設又はポンプ施設に係る監督管理等を行わせる場合については10年以上、排水施設に係る監督管理等を行わせる場合については5年以上下水道の工事に関する技術上の実務に従事した経験を有する者であること。
- 6 建設省令で定めるところにより、前各号に規定する者と同等以上の知識及び技能を有すると認められる者であること。
- 7 次の表の上覧に掲げる技術検定に合格した者で、同表の中欄に掲げる区分に応じ、それぞれ同表の下欄に掲げる年数以上下水道、上水道、工業用水道、河川、道路その他建設大臣が定める施設に関する技術上の実務に従事した経験を有するもの（計画設計を行わせる場合にあつては3年以上、処理施設又はポンプ施設に係る監督管理等を行わせる場合にあつては1年以上下水道に関する技術上の実務に従事した経験を有するものに限る。）であること。

日本下水道事業団法施行令 (昭和47年政令第286号) 第4条第1項の第1種技術検定	計画設計を行わせる場合	5年
	処理施設又はポンプ施設に係る 監督管理等を行わせる場合	2年
	排水施設に係る監督管理等を 行わせる場合	1年
日本下水道事業団法施行令 第4条第1項の第2種技術検定	処理施設又はポンプ施設に係る 監督管理等を行わせる場合	2年
	排水施設に係る監督管理等を行 わせる場合	1年

- 8 技術士法(昭和58年法律第25号)による第2次試験のうち建設大臣が定める技術部門に合格した者(建設大臣が定める選択科目を選択した者に限る。)であること。

下水道法施行令第15条第8号の建設大臣が定める技術部門及び選択科目に関する件(昭和46年10月9日建設省告示第1706号)

下水道法施行令(昭和34年政令第147号)第15条第8号の建設大臣が定める技術部門は、上下水道部門とし、同号の建設大臣が定める選択科目は、下水道とする。

## ・ 港湾及び港湾海岸に係る技術者資格表

受注者は、港湾及び港湾海岸に係る設計・測量・調査等業務については、下表を適用する。

資格内容	深浅測量		探査工	土質調査	環境調査	気象海象調査	計画調査	環境影響評価調査	設計	電算プログラム開発	備考
	深浅測量	水路測量									
港湾海洋調査士											但し、「環境調査」部門は環境調査の騒音審査、振動調査、悪臭調査を除く
「深浅測量」部門											
「危険物探査」部門											
「土質・地質調査」部門											
「環境調査」部門											
「気象・海象調査」部門											
ビルコンサルティングマネージャー											但し、港湾関係の実務経験が3年以上ある者
「土質及び基礎」部門											
「地質」部門											
「建設環境」部門											
「港湾及び空港」部門											
水路測量技術											
「1級（沿岸）」											
「1級（港湾）」											
地質調査技士											但し、港湾関係の実務経験が大卒者は5年以上、高卒者は8年以上ある者
基本情報技術者											

# ・身分証明書交付願及び身分証明書様式 (参考)

## 身分証明書交付願

平成 年 月 日

北九州市長 様

請負者 住所  
商号又は名称  
代表者  
電話番号  
管理技術者

平成 年 月 日付で契約締結した下記業務の履行に伴い、第三者の土地への立入りが必要となるため、別紙のとおり身分証明書の交付をお願いします。

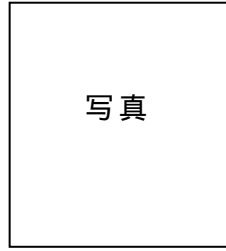
記

1. 業 務 名
2. 作業従事期間
3. 作業内容
4. 作業従事者

氏 名	生年月日	住 所



# 身 分 証 明 書



受注者 住所  
名称  
従事者名

上記の者は、土木設計業務等委託契約書に基づき、下記業務の現地踏査を行う者であることを証明する。

委託業務名

有効期間 (自) 平成 年 月 日

(至) 平成 年 月 日

発行日 平成 年 月 日発行

発 行 者

北九州市長

印

( 表 )

- 1 . 本証は、印、日付のないものは無効とする。
- 2 . 有効期間を経過したときは、又は契約が解除されたとき等不要になった時は 1 0 日以内に返還すること。
- 3 . 氏名等に変更があったときは、すみやかに記載事項の変更を受け
- ること。
- 4 . 本証は、他人に貸与し、又は譲渡してはならない。

( 裏 )